

4 「適切な発問や指示」「構造的な板書」って？



指示は短く分かりやすくなるよう心掛けています。板書も子どもが整理しやすいよう図式化しています。(10年経験者の声)

このような指導によって、子どもは活動の手順が分かったり、学習内容の確認ができたりします。これは、学習場面に応じた指導技術と言えるでしょう。

さらに、授業全体を見通した指導を意識することで、子ども主体の授業となります。

授業全体の流れを考え、ねらいに向かう子どもの反応を予想しながら、事前に発問や板書の計画を立てることが大切です。



思考を促す発問や指示の計画

1 何のために発問するのかを明確にする。

【子どもの学習状況を把握するために】

学習内容をどの程度理解したのかを確認する。

- 「問題で聞かれていることは、何ですか。」
- 「ジュース1本とあめ1個の値段は、それぞれいくらですか。」

【子どもの思考を深めるために】

相互の意見を対比させ、共通点や相違点を見付けさせる。

- 「AさんとBさんの考え方の違う所はどこでしょう。」

互いの考えを整理し、関連に気付かせる。

- 「みんなの意見をまとめると、どんなことが分かりますか。」

根拠を問うことで、思考の過程に気付かせる。

- 「なぜ、Cさんの考えがよいと思ったのですか。」

「ゆさぶる」ことで、知的好奇心を高める。

- 「この方法は、どんな時でも使えると思いますか。」

2 いつ、どんな発問や指示をするかを考える。

子どもたちの反応を予想し、発問や指示のタイミングを考えたり、学習のねらいに向けた活動となるように内容を考えたりする。

同じ内容を言い換えて問い直したり、一つ一つ指示がなければ活動できなかったりすると、子どもの思考や活動が停滞します。発問計画を立てる時には、次のことに気を付けましょう。

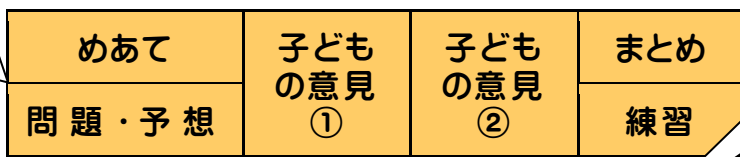
- 子どもが理解できるように簡潔、明瞭であること。
- 発問や指示が多くなりすぎないように精選すること。
- 発問や指示の後には、間を取り、子どもに考える時間を与えること。

授業に沿った思考の流れの見える板書

【例】

構造化

めあてからまとめに至る道筋が分かるようにしましょう。
(並びや位置の検討)



視覚的効果

ポイントには、黄色チョーク等を使って目立たせ、意識させましょう。

○月○日(月)

<p>めあて</p> <p>いろいろな考え方でといてみよう。</p>	<p>① べつべつに</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">Aさんの考え</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">Cさんの考え</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">Bさんの考え</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">Dさんの考え</div> </div>	<p>まとめ</p> <p>「一人分をまとめて」の考えの方が、計算がかんたんになる。</p>
<p>問題</p> <p>誕生日会をするので、 1本80円のジュースを 6本 1こ20円のあめを 6こ 買いました。 何円はらえばよいですか。</p> <p>よそう</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">○○○○○</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">○</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">○</div> </div>	<p>② 一人分をまとめて</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">○○○○○</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">○○○○○</div> </div>	<p>練習</p> <p>スーパーで、1本60円のキュウリ5本と1こ40円のトマト5こを買いました。何円はらえばよいですか。</p>

イラスト等を用いてイメージしやすくしましょう。

問題解決の手掛かり

ホワイトボードを効果的に用いて子どもの考えを集約し、ねらいに迫る過程を示しましょう。

思考の流れ

類似問題を示すことで、学習の振り返りをしましょう。

学習のまとめ

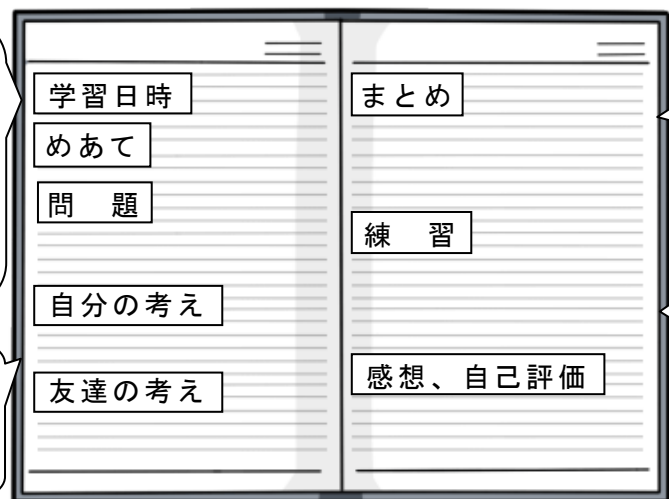
子どもの学習意欲を高めるノート指導

【例】

授業を振り返り、次時からの学習に生かせるように、必ず記入させましょう。

- ・学習日時
- ・めあて
- ・問題
- ・考え(自分・友達)
- ・まとめ 等

子どもの意欲を高められるように、ノートをチェックしたら、コメントや印等を必ず付けましょう。



学年の始めにノートの書き方を決め、子どもと確認しましょう。

新しい単元に入った時は、早い段階でノートを点検し、つまずきの早期発見に努めましょう。

発達段階に応じた系統的なノート指導を行うために、基本的な決まりについて教師同士で話し合い、共通理解を図りましょう。

授業の様子を画像や音声などに記録し、自分自身の発問、板書を見直しましょう。客観的な振り返りができ、授業改善に役立ちます。